



平成28年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年4月4日

上場取引所 東

上場会社名 ケイティケイ株式会社
 コード番号 3035 URL <http://www.ktk.gr.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成28年4月5日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 土岐 勝司
 (氏名) 赤羽 聡

TEL 052-931-1881

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年8月期第2四半期の連結業績(平成27年8月21日～平成28年2月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年8月期第2四半期	8,355	△2.0	92	—	109	—	71	—
27年8月期第2四半期	8,528	△0.3	△64	—	△53	—	△40	—

(注)包括利益 28年8月期第2四半期 78百万円 (—%) 27年8月期第2四半期 △3百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
28年8月期第2四半期	12.46	—
27年8月期第2四半期	△7.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年8月期第2四半期	8,728	2,627	30.1
27年8月期	8,832	2,549	28.9

(参考)自己資本 28年8月期第2四半期 2,627百万円 27年8月期 2,549百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
27年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年8月期	—	0.00	—	—	—
28年8月期(予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年8月期の連結業績予想(平成27年8月21日～平成28年8月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	17,100	△2.4	125	—	139	—	70	—	12.23

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年8月期2Q	5,725,000 株	27年8月期	5,875,000 株
② 期末自己株式数	28年8月期2Q	2,861 株	27年8月期	152,861 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年8月期2Q	5,722,139 株	27年8月期2Q	5,722,155 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在における入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成27年8月21日～平成28年2月20日)におけるわが国経済は、政府主導による経済政策等により、企業業績や雇用情勢に改善が見られるなど緩やかな回復基調が続いておりますが、中国を始めとするアジア新興国等の景気が下振れし、依然として先行きが不透明な状況で推移しております。

当社グループが位置する事業環境は、オフィス用品の分野においては、企業に定着した「節約・経費削減志向」による影響と競合間の受注を巡る厳しい販売・価格競争が続いており、IT商品(インターネットを中心としたネットワーク関連商品)の分野では、Internet of Things(IoT、モノのインターネット)の概念の急速な広がりから、システムの構築案件などの増加が見込まれており、同業他社との価格競争は厳しいものの、IT投資は引き続き堅調に推移しております。

このような環境のなか、当社グループはV字回復を目指す「ktkリバイバルプラン」において、営業、生産、管理・経営、調達・物流の各部門に「営業量と営業効率の最大化」「総経費削減、品質改善、人事制度再構築」「業務効率と社員満足の最大化」「調達コストと物流コストの最小化」を戦略に掲げ、最速実行をしております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は8,355百万円(前年同四半期比2.0%減)となりました。営業利益は92百万円(前年同四半期は64百万円の営業損失)、経常利益は109百万円(前年同四半期は53百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は71百万円(前年同四半期は40百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となり大幅に改善しました。

なお、セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(サプライ事業)

サプライ事業は、企業の「節約・経費削減志向」と同業他社との厳しい販売・価格競争の中、不採算取引の見直しを行ったことにより売上高は僅かに減少しました。利益面においては、「ktkリバイバルプラン」を最速実行する中で、当社においては営業効率の最大化の他、業務効率改善による経費削減や調達コストの削減等に取り組み、連結子会社の株式会社アイオーテクノでは原材料費の低減を中心に製造コストの削減を強力に推進したことで大幅な改善を致しました。

これらの結果、売上高は8,255百万円(前年同四半期比2.2%減)、セグメント利益は104百万円(前年同四半期は49百万円のセグメント損失)となりました。

なお、連結子会社である株式会社青雲クラウンの業績は、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第3四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節的変動があります。

(ソリューション事業)

ソリューション事業は、「@Securemail」シリーズやSSL証明書の売上が増加したことに加え、大手ベンダー向けのシステム開発とSPIS-BOXの新規導入によるライセンス、保守契約を締結した結果、売上高は99百万円(前年同四半期比14.3%増)、セグメント利益(経常利益)は4百万円(前年同四半期連結累計期間は4百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ104百万円減少し、8,728百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ52百万円減少し、5,886百万円となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が162百万円、商品及び製品が44百万円増加し、現金及び預金が262百万円減少したこと等によります。固定資産は前連結会計年度末に比べ51百万円減少し、2,842百万円となりました。これは、主に有形固定資産が26百万円、無形固定資産が32百万円減少したこと等によります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ221百万円減少し、5,117百万円となりました。これは、主に賞与引当金が42百万円増加し、支払手形及び買掛金が235百万円減少したこと等によります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ38百万円増加し、983百万円となりました。これは、主に長期借入金が8百万円、退職給付に係る負債が7百万円増加したこと等によります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ78百万円増加し、2,627百万円となりました。これは、主に利益剰余金が71百万円増加したこと等によります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ236百万円減少し、1,996百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、303百万円(前年同四半期は135百万円の使用)となりました。収入の主な要因は、税金等調整前四半期純利益117百万円であり、支出の主な要因は、売上債権の増加額171百万円、仕入債務の減少額235百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、32百万円(前年同四半期は194百万円の獲得)となりました。収入の主な要因は、保険積立金の解約による収入38百万円であり、支出の主な要因は差入保証金の差入による支出16百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、34百万円(前年同四半期は132百万円の使用)となりました。収入の主な要因は、短期借入金の純増額32百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年8月期の業績予想につきましては、平成27年10月2日に公表いたしました業績予想を修正しております。詳しくは平成28年3月28日発表の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

《簡便的な会計処理》

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

②たな卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計期間末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計期間に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

⑤法人税並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断については、前連結会計期間末以降に経営環境等に著しい変化が生じておらず、一時差異等の発生状況に大幅な変動がないと認められるため、前連結会計期間において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等
を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を
資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更して
おります。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定に
よる取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法
に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、
前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っ
ております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業
分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来
にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年8月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年2月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,802,553	2,539,892
受取手形及び売掛金	2,549,584	2,711,740
有価証券	21,017	21,020
商品及び製品	421,464	465,946
仕掛品	134	709
原材料及び貯蔵品	52,032	53,194
その他	94,408	96,207
貸倒引当金	△2,807	△2,593
流動資産合計	5,938,387	5,886,116
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,102,403	1,097,416
その他(純額)	477,366	455,799
有形固定資産合計	1,579,770	1,553,216
無形固定資産		
のれん	96,836	93,988
その他	161,422	131,452
無形固定資産合計	258,258	225,440
投資その他の資産		
その他	1,064,248	1,080,911
貸倒引当金	△8,290	△17,387
投資その他の資産合計	1,055,957	1,063,523
固定資産合計	2,893,987	2,842,180
資産合計	8,832,374	8,728,297

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年8月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年2月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,498,924	3,263,023
短期借入金	1,348,503	1,380,948
未払法人税等	27,167	24,319
賞与引当金	51,054	93,384
その他	413,148	355,854
流動負債合計	5,338,798	5,117,530
固定負債		
長期借入金	599,277	608,131
役員退職慰労引当金	88,236	78,477
退職給付に係る負債	113,779	121,451
その他	143,267	175,455
固定負債合計	944,560	983,514
負債合計	6,283,358	6,101,045
純資産の部		
株主資本		
資本金	294,675	294,675
資本剰余金	708,475	663,325
利益剰余金	1,454,605	1,525,954
自己株式	△46,431	△1,281
株主資本合計	2,411,323	2,482,673
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	137,692	144,578
その他の包括利益累計額合計	137,692	144,578
純資産合計	2,549,016	2,627,252
負債純資産合計	8,832,374	8,728,297

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年8月21日 至平成27年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年8月21日 至平成28年2月20日)
売上高	8,528,906	8,355,709
売上原価	6,874,231	6,647,500
売上総利益	1,654,674	1,708,208
販売費及び一般管理費	1,719,547	1,615,259
営業利益又は営業損失(△)	△64,872	92,949
営業外収益		
受取利息	604	321
受取配当金	8,384	7,292
仕入割引	20,290	20,883
受取家賃	14,815	17,219
その他	5,606	6,435
営業外収益合計	49,701	52,152
営業外費用		
支払利息	10,683	8,564
売上割引	20,953	21,548
その他	6,788	5,883
営業外費用合計	38,424	35,996
経常利益又は経常損失(△)	△53,596	109,105
特別利益		
保険解約益	—	8,418
特別利益合計	—	8,418
特別損失		
投資有価証券評価損	265	—
特別損失合計	265	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	△53,861	117,523
法人税、住民税及び事業税	9,629	21,128
法人税等調整額	△22,985	25,045
法人税等合計	△13,356	46,174
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△40,504	71,349
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支 配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会 社株主に帰属する四半期純損失(△)	△40,504	71,349

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年8月21日 至平成27年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年8月21日 至平成28年2月20日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△40,504	71,349
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	37,010	6,886
その他の包括利益合計	37,010	6,886
四半期包括利益	△3,494	78,235
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,494	78,235
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年8月21日 至平成27年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年8月21日 至平成28年2月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△53,861	117,523
減価償却費	65,443	62,150
のれん償却額	2,848	2,848
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,587	8,883
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△852	△9,759
賞与引当金の増減額(△は減少)	△454	42,330
受取利息及び受取配当金	△8,988	△7,614
支払利息	10,683	8,564
固定資産除却損	-	15
固定資産売却損益(△は益)	-	△311
保険解約損益(△は益)	-	△8,418
投資有価証券売却損益(△は益)	70	-
投資有価証券償還損益(△は益)	67	-
投資有価証券評価損益(△は益)	265	-
売上債権の増減額(△は増加)	△223,171	△171,302
たな卸資産の増減額(△は増加)	△50,852	△46,218
仕入債務の増減額(△は減少)	192,339	△235,900
その他	△59,382	△40,778
小計	△127,433	△277,989
利息及び配当金の受取額	8,988	7,614
利息の支払額	△10,931	△9,568
法人税等の支払額	△6,269	△23,369
営業活動によるキャッシュ・フロー	△135,645	△303,312
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△94,921	△9,414
定期預金の払戻による収入	91,010	36,003
有価証券の取得による支出	△4	△3
有形固定資産の取得による支出	△7,754	△5,530
有形固定資産の売却による収入	3,694	5,633
無形固定資産の取得による支出	△1,364	△2,353
投資有価証券の取得による支出	△5,742	△6,137
投資有価証券の売却による収入	4,475	-
投資有価証券の償還による収入	12,194	-
貸付金の回収による収入	212,500	-
差入保証金の差入による支出	△15,026	△16,440
差入保証金の回収による収入	5,153	4,608
保険積立金の積立による支出	△8,687	△8,485
保険積立金の解約による収入	-	38,211
長期前払費用の取得による支出	△1,505	△3,201
投資活動によるキャッシュ・フロー	194,020	32,890

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年8月21日 至平成27年2月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年8月21日 至平成28年2月20日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	32,445
長期借入れによる収入	330,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△443,215	△291,146
リース債務の返済による支出	△7,665	△6,907
自己株式の取得による支出	△12	-
配当金の支払額	△11,460	△41
財務活動によるキャッシュ・フロー	△132,354	34,350
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△73,979	△236,071
現金及び現金同等物の期首残高	1,939,116	2,232,165
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,865,137	1,996,094

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成26年8月21日 至 平成27年2月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	サプライ事業	ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,441,565	87,340	8,528,906	—	8,528,906
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	163	163	△163	—
計	8,441,565	87,504	8,529,069	△163	8,528,906
セグメント損失(△)	△49,364	△4,231	△53,596	—	△53,596

(注) セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を図っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成27年8月21日 至 平成28年2月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	サプライ事業	ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,255,923	99,786	8,355,709	—	8,355,709
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	158	158	△158	—
計	8,255,923	99,945	8,355,868	△158	8,355,709
セグメント利益	104,122	4,982	109,105	—	109,105

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を図っております。